

頭頸部腫瘍科

○ 頭頸部腫瘍科の概要

1. 頭頸部腫瘍科の特色

当科は平成17年7月より本邦に於いて2番目に開設された頭頸部外科専門診療科である。上縦隔より鎖骨上で脳腫瘍・脊髄腫瘍などを除く全ての腫瘍性疾患を治療対象としている。頭頸部臓器は音声、嚥下や日常のコミュニケーションに密接に関連する部位である。治療方針は、手術治療を基本としているが、それにとらわれることなく、放射線治療、化学療法などを積極的に取り入れ、嚥下、構音機能および形態の温存を追求している。当科は、形成外科、放射線腫瘍科、臨床腫瘍科、外科、脳外科、口腔外科などが関与する頭頸部癌集学的治療チームの要として機能している。

埼玉県には頭頸部癌専門病院は当科と埼玉がんセンターしか存在せず、埼玉全県、東京都多摩地区から多数の患者が集まっており、大学附属病院では全国屈指の症例を誇っている。頭頸部腫瘍には様々な部位が含まれているが、短期間で頭頸部腫瘍を一通り経験することができる。

平成19年4月より甲状腺腫、上皮小体腫瘍も当科が担当しており、それに伴い平成27年4月から甲状腺腫瘍専門外来を開設し診療にあたっている。

腫瘍外科のみならず、音声障害、嚥下障害の外科的治療、いわゆる喉頭機能外科の分野にも力を入れ、患者さんの治療終了時の障害の軽減に努めている。

また、当院は日本耳鼻咽喉科学会、日本気管食道学会専門医、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修、認定病院である。

新専門医制度では、埼玉医科大学病院、総合医療センター、東京大学、帝京大学と連携して頭頸部外科教育に当たっている。

2. 診療実績

平成28年

主要手術

遊離皮弁再建手術	53例（下咽頭18、上顎1、舌口腔27、中咽頭3）
頭蓋底手術（下垂体も含む）	8例
喉頭全摘	13例
喉頭温存下咽頭部切	4例
頸部郭清	164側
甲状腺	82例
唾液腺	40例
鼻副鼻腔手術	24例
口腔悪性腫瘍手術	75例
など 総計	412例

navigation手術、内視鏡下手術なども積極的に取り組んでいる。

3. スタッフ

菅澤 正（教授、診療部長）：頭頸部がん専門医、日耳鼻専門医、指導医
中平 光彦（教授、副診療部長）：頭頸部がん専門医、日耳鼻専門医、指導医
小柏 靖直（講師、病棟医長）：頭頸部がん専門医、日耳鼻専門医、指導医
蝦原 康宏（講師、研修医長）：頭頸部がん専門医、日耳鼻専門医、指導医
久場 潔実（助教）：日耳鼻専門医
井上 準（助教）：日耳鼻専門医
林 崇弘（助教）：日耳鼻専門医
榎木祐一郎（助教）：口腔外科専門医
林 直樹（助教）：口腔外科認定医

4. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医（指導者）

研修責任者：菅澤 正（診療部長）

臨床研修指導医：菅澤 正、中平 光彦、小柏 靖直、蝦原 康宏

上級医（指導者）：久場 潔実、井上 準、林 崇弘、

5. 臨床研修プログラムの特色

将来、耳鼻咽喉科頭頸部外科医を目指す研修医は勿論のこと、腫瘍専門医を目指す者で、頭頸部腫瘍甲状腺腫瘍の基礎的知識を得たい者にも配慮した研修を行う予定である。気道、嚥下等の管理などについても学べる。

また、当科におけるプログラムの特色としては、短期間で数多くの手術症例を経験できることである。特に頭頸部外科の基本手技である頸部郭清術は年間 160 例と極めて多い。また、血管吻合を用いた遊離皮弁再建も毎週コンスタントに施行されており全国有数の症例数を誇り、2 ヶ月間の研修期間でも相当数の手術症例を経験できる。また、現在進行下咽頭癌に対する機能温存治療、唾液腺癌再発例に対する免疫チェックポイント薬の効果など多数の臨床研究に参加している。平成 25 年 3 月から頭頸部扁平上皮癌に対して Cetuximab を適応を選んで使用している。さらに平成 26 年 6 月から RAI 治療抵抗性の局所進行又は転移性分化型甲状腺癌患者に対し適応となったソラフェニブや平成 27 年 5 月より根治切除不能な甲状腺癌に対し適応となったレンバチニブなど分子標的薬の臨床応用も行っている。この様な症例が常時数名入院しており化学療法 of 全身管理についても経験できる。

研修の目標として次の 3 つである。1) 頭頸部進行がんの手術症例を担当し手術や周術期管理を経験する、2) 頭頸部進行がんに対する化学療法症例を担当し、副作用対策を中心とした全身管理を行う。3) 気道食道の機能評価ができる。

6. 経験目標・到達目標

頭頸部領域の基本的診察手技（内視鏡検査等）を身に付けると共に、代表的頭頸部腫瘍、頸部腫瘍の取り扱いについて理解する。

到達目標と評価表（1 ヶ月間研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 耳鼻咽喉科領域（鼻腔、口腔、咽喉頭、頸部）の所見が取れる。	()	()
2. 所見を正確に記載できる。	()	()
3. 頸部 CT の読影ができる。	()	()
4. 喉頭ファイバー検査ができる。	()	()
5. 気管切開を経験し、気道確保法を理解する。	()	()

到達目標と評価表（2 ヶ月目以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 喉頭癌を経験し、治療方針、音声保存手術、再建手術を理解する。	()	()
2. 口腔癌症例を経験し鑑別診断ができ、治療方針を理解する。	()	()
3. 咽頭癌を経験し鑑別診断ができ、部位別の特色、治療方針を理解する。	()	()
4. 頸部腫瘍の取り扱い、鑑別診断ができる。	()	()
5. 頸部郭清の分類、概念を知る。	()	()
6. 頸部リンパ節生検、良性腫瘍摘出術を経験する。	()	()

7. 週間スケジュール

手術日	火、金は全日、月、水、木曜午後も随時
新患検討会、手術報告会	月、金曜夕
回診	水曜午後
カンファ 放射線	火曜午後
病理 月 1 回	金曜夜

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター

頭頸部腫瘍科 菅澤 正（診療部長、教授）、あるいは中平 光彦（教授）

TEL：042-984-4111（代表）

E-mail：msuga@saitama-med.ac.jp